

## 論文審査結果の要旨

本論文について、平成31年2月14日午前10時から12時にわたり、京都府立大学文学部会議室において公開審査会を実施した。最初に概要の発表があり、その後、審査委員による質疑が、各章ごとにおこなわれた。質疑のおもな内容は、以下の通りである。

### 【第1章】

- ①揺銭樹の思想的背景は？
- ②蟬の像の存在など道教の要素が強いのではないか？
- ③四川と西域との関係を他の物質資料などからも検討すべきでは？

### 【第2章】

- ④分布図に凡例がなく、器物ごとの分布の特徴がわからない。
- ⑤神亭壺の仏像以外の要素からわかることはないのか？
- ⑥南方からの伝播を示す証拠はあるのか？

### 【第3章】

- ⑦銅製ストゥーパが出土した河南省鞏県は、後漢代においてどのような位置づけがされるのか？
- ⑧「塔」だけでなく、「寺」の用例についても検討すべきでは？
- ⑨頂部の意匠が東晋以後の仏塔にどのように継承されるのか？

### 【第4章】

- ⑩一覧表の記載が不統一で廃棄年代や分類の欄がないのは不便である。
- ⑪埋仏の意義のうちA類については個別に廃仏との関係を検討できるのでは？
- ⑫塔の下に地宮を設ける事例では人の出入りを想定しているかどうか？

以上の質疑に対して、①②あくまでも銭の形象が中心であり、道教よりも富に対する希求が中心である。③交易を示す物質資料はほとんどなく、直接的な交渉を示すのは困難である。④分布図の不備を痛感しており、今後訂正していきたい。⑤今回は仏像の表現の検討が中心であったが、今後取り組みたい。⑥南方ルートの検討は、これからも研究を進めていきたい。⑦後漢代において重要な拠点の一つであったと認識しているが、十分に論文に反映できなかった。⑧今回は「浮屠」や「浮図祠」についての検討が中心であり、よりあとの時代を考える際に検討したい。⑨これも石窟寺院の表現など多くの事例があり、今回の対象時期からはずれるために論じていないが、今後に扱っていきたい。⑩表に不備があることは確かであり、今後にまとめる際に手直ししたい。⑪これも、論文執筆時には検討が不十分であったのでこれからあらためて検討したい。⑫この点も検討課題として認識している。

以上の質疑応答のほかにも、信仰を伝えた人々についての検討が必要であるといった今後の展望に関する質疑もおこなった。また、経典の引用の方法に不統一があることも修正が求められた。このように、内容を精緻にするためには、さらに検討すべき課題も残されているが、基礎的な資料の検討作業に十分に取り組み、詳細な資料提示のうえで、中国初期仏教を考古学から明らかにするという本論文のもくろみは達成されているものと判断された。これは、単に考古学上の一つの達成というだけではなく、中国古代仏教史への寄与という点でも大であると評価できる。また、外国人留学生という不利な立場でありながら、日本語の運用も問題なく、独創性の高い論文をまとめることができたことは筆者の高い資質を証明していよう。以上から、本委員会は本論文が博士（歴史学）の学位授与評価基準を満たしているものと認める。